

一般演題 6 O6-04

地域医療連携と高気圧酸素治療での放射線障害の1例

○長尾優大¹⁾ 深谷武徳¹⁾ 柳 健次¹⁾ 江上祐市¹⁾
善波奨之¹⁾ 川畠貴士¹⁾ 須藤 優¹⁾ 三浦邦久²⁾
石原 哲²⁾

[1) 医療法人伯鳳会 東京曳舟病院 診療技術部 ME課
2) 医療法人伯鳳会 東京曳舟病院 診療部救急科]

認知していただき、地域医療連携を深めていく。さらに、HBO 繼続中でも他院や当院に通院ができるよう HBO 施設を持つ施設との連携を検討する。

【はじめに】

当院は東京都墨田区にあり、病床数200床を有する地域医療救急センターを標榜している。DMATなど専門チームを保有し、指定病院としてチームを派遣し機動性と専門性を活かした医療支援を行っている。高気圧酸素治療（以下HBO）では脳血管障害や腸閉塞、末梢循環障害に伴う皮膚潰瘍など、様々な疾患に対して治療を行ってきた。

【地域医療連携】

当院の症例数は2018年に比べ減少傾向にあるが、治療回数は減少傾向はない。これは適応基準が明確化され、最大30回までできる症例が増加していることや近隣施設からHBO目的の紹介を多数頂いていることが影響していると考えられる。紹介を頂いた中でも放射線障害が突出しており、放射線性膀胱炎が特に多いことから、今回難治性疾患の中でも放射線性膀胱炎を注視している。

【症例報告】

86歳女性で、外陰部Paget病にて2010年に広汎切除（尿道周囲は温存）後、2015年に再発を認め、放射線照射治療を60Gy/30frで施行。その後、尿道狭窄と放射線性膀胱炎となつた。2024年の3～4月にかけてHBOを行い軽快退院となつたが、同年10月に粘膜からの出血を認められ、膀胱鏡を実施したところ放射線性膀胱炎の再燃が疑われ当院に再入院された。

【転帰】

放射線性膀胱炎に対し、2回の入院を経て27回治療を実施し、軽快退院となつた。

【考察】

当院との医療連携が希薄な周辺施設との連携を図ることで紹介数の増加が今後見込める事が示された。

治療における長期入院は患者にとって負担が大きいことから、外来に変更し通院ができると負担の軽減につながる。

HBO設備を備えた病院間の連携により、患者の通院負担を軽減できるよう、さらなる地域医療連携が必要と考えられる。

【結語】

周辺の放射線治療施設にHBOの効果、有用性などを